

2022年度 法学部人文科学・自然科学研究会紹介

— 法学部副専攻認定制度 —

目次

法学部「副専攻認定制度」について	2
------------------	---

人文科学研究会		
担当者	テーマ	
有光 道生	アメリカ文化論	4
礪崎 敦仁	北朝鮮研究	5
大久保 教宏	世界の宗教と社会	6
大出 敦	日仏交流	7
大隼 エヴァ	映像から読み取れるアラブ世界	8
大和田 俊之	アメリカ文化研究	9
奥田 暁代	アメリカの文化と社会	10
折井 善果	イベリア半島の文化と社会	11
笠井 裕之	詩を読み、詩を書く	12
片山 杜秀	日本の思想と文化	13
許 光俊	小説を読む、書く	14
熊代 敏行	ことばの分析—認知言語学の手法を用いて	15
熊野谷 葉子	ロシアの文化と社会	16
佐藤 元状	21世紀の映画研究(ヨーロッパ、アジア)	17
三瓶 慎一	現代ドイツ研究	18
永嶋 友	イギリス文化・社会とメディア	19
檜橋・アンリ, ナタリー	Société française	20
浜田 和範	ラテンアメリカの文化と社会	21
安田 淳	中国及び東アジアの安全保障	22
横山 千晶	イギリス人とはだれか・イギリス文化とは何か	23
林 秀光	自然科学と人文科学の架け橋——環境史を学ぶ	24

自然科学研究会		
担当者	テーマ	
小野 裕剛	生命科学にかかわる諸問題	25

法学部「副専攻認定制度」について

専門以外の関心事を追求し、副専攻として認定してもらおう

法学部の学生であるみなさんは、まずは法律学科目や政治学科目といった専門科目をしっかりと学んでください。それが基本。

でも、専門さえ学べばそれでよいのでしょうか。実は皆さんには、以前から関心を持っている分野があるのではないのでしょうか。「ひそかに小説家志望である（できれば文学賞をもらいたい）」「生物を観察していて飽きない」「日本語は言語として面白すぎることに気付いた」「神社仏閣めぐりにはまっている」などなど…

大学には、専門以外の知的好奇心を満たすため、さまざまな授業があります。法学部ではそれらを「人文科学科目」「自然科学科目」などとして、一定単位数を履修することになっています。それらの授業を通して、ぜひ皆さんが興味を持っていることを学問的に掘り下げていってください。

興味のおもむくままに広く浅くランダムに科目を履修していくのは大いに結構。だけど、テーマを決めて計画的に学び、もう一つの専門といえるほど質量ともに充実した知識や研究を積み重ねることができたらもっと素晴らしいのではないか。というわけで始まったのが「副専攻認定制度」です。これは副専攻としての学士号を与えるものではありませんが、興味があるテーマに関連する科目を履修し、条件を満たした学生には「法学部副専攻認定証」が授与されます。数多くの科目の中から関心のある科目を自分で探し出し、知識や研究を自主的に組み立てていくことを奨励する制度です。知とは、あるいは知の喜びや楽しさとは、自由と自発性の上に花咲くのです。

副専攻認定の条件：単位取得・卒業研究

副専攻認定のための条件は2つあります。

1. ひとつの領域やテーマについて、それに関連する科目を合計16単位以上取得していること。
この16単位以上の中には、3・4年次に履修する「人文科学研究会」「自然科学研究会」が含まれます。
2. 人文科学の場合は3・4年次の2年間、自然科学の場合は3年次か4年次の1年間、それぞれ「人文科学研究会」ないし「自然科学研究会」を履修すること（留学のためにこれらの科目に不足単位が出る場合は、留学先で履修した科目の単位によって補充することが認められる場合もあり）。さらに卒業論文レベルの成果をまとめ、提出すること。なお、研究会の担当者によっては履修条件を設ける場合があります。

研究会は少人数授業ですから、教員や学生同士で刺激を与えたり受けたりしながら、濃密な時間を過ごすことができます。これこそが大学の授業の醍醐味です。

もうちょっと詳しく！ 人文科学の場合

日吉設置の関連する科目を8単位以上と三田設置の「人文科学研究会 I～IV」を8単位、合計16単位以上取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。

必須要件1：日吉設置の関連する科目（合計8単位以上）

必須要件2：三田設置の人文科学研究会 I～IV（各半期2単位、合計8単位以上）＋卒業研究
ロースクールを目指す早期卒業者は3年間で修了することもできますが、人文科学研究会の単位数が4単位不足しますので、日吉で人文科学特論を4単位分取得しておくか、3年次に人文科学研究会 I・IIをもう1コマ履修して4単位取得し、不足分を補うことができます。あるいは人文科学特論と人文科学研究会の両方で4単位取得でも構いません。詳細は、各人文科学研究会担当者に問い合わせましょう。

副専攻（人文科学）認定の例①：アメリカの文化と社会

1・2年次 地域文化論 [アメリカ] I～IV（各半期2単位、合計8単位）、他

3・4年次 人文科学研究会（アメリカ文化研究）（各半期2単位、合計8単位）、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

もうちょっと詳しく！ 自然科学の場合

日吉設置の実験科目（科目名に「実験を含む」と記述があるもの）6単位以上と、三田に設置された「自然科学研究会 III・IV」（IIIとIVは同一の担当者）4単位以上を取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。さらに、前述の科目を含めて、自然科学科目（数学系列・統計系列を含む）の取得合計単位数が16単位以上となる必要があります。

必須要件1：日吉設置実験科目＝物理学 I・II、化学 I・II、生物学 I・II
（各半期3単位から合計6単位以上）

必須要件2：三田設置自然科学研究会 III・IV（同一の担当者）
（各半期2単位、合計4単位以上）＋卒業研究

自然科学研究会 III・IV は3、4年生対象の科目であり、履修に際しては自然科学科目8単位以上をすでに取得していることが原則です。また、自然科学研究会の履修は、原則として3年次か4年次の1年間です。ただし、担当者によっては2年間の履修を課していることもあり、その場合は特例として合計8単位が認められます。詳細については、各担当者の個別説明を参照して下さい。

副専攻（自然科学）認定の例：生物学

1・2年次 実験科目（必修）：生物学 I・II（各半期3単位、合計6単位）

自然科学科目：心理学 I・II（各半期2単位、合計4単位）、自然科学総合講座 I（半期2単位）、他

3・4年次 自然科学研究会 III・IV（生物学）（各半期2単位、合計4単位）、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

人文科学研究会、自然科学研究会履修の際の注意

履修を希望する学生は、Web 履修申告システムによる履修申告手続のほか、初回授業に必ず出席をし、担当者の許可を受けてください。履修希望者が多すぎる場合は、選抜を行うこともあります。本冊子の各研究会のページを必ず確認してください。

副専攻認定へのおおまかな流れ

〔入学時〕 本冊子をよく読み、関心のある人文科学研究会、自然科学研究会を見つける。

〔1・2年次〕 関心のある研究会のページに記載された「関連する科目」として履修をすすめる科目を参考にしながら、日吉で関連する科目を履修する。

〔2年次11月～12月〕 日吉で開かれる副専攻認定制度の全体説明会、各研究会の個別説明会に出席して、研究計画を立てる上での参考にしてください。

〔3・4年次〕 人文科学研究会ないし自然科学研究会を履修。卒業制作を提出。

現時点では副専攻認定を受ける決心がつかない人も、ここに書いてある条件を意識して授業を取っておけば、3年生や4年生になって決めることもできます。

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor.html> では卒業制作の一部を公開しています。法学部サイトの副専攻のページ (<http://www.law.keio.ac.jp/submajor/>) も見てください。

2022年度三田で予定されている研究会は、本冊子の目次に記載のとおりです。

なお、オンライン授業が継続された場合には、多少の変更が生じるかもしれませんので、各担当者に問い合わせたりして、最新情報に留意してください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{ありみつ}有光 ^{みちお}道生

テーマ：アメリカ文化論

授業内容：

本研究会では、米国の様々な文化（文学、アート、映画、音楽、パフォーマンス、コミックス、食事、ファッション）を論じる知識と技術を身につけることが目標です。前期は、アメリカ研究の重要文献を輪読し学問的蓄積を理解することに努め、後期は、各自関心のあるテーマについてリサーチをした上で成果を口頭発表してもらいます。授業形式・内容については相談しながら適宜変更していきます。

事前の準備：

副読本として以下の3冊に目を通してきてください。

- ①鈴木透『食の実験場アメリカ ファーストフード帝国のゆくえ』（中公新書、2019年）
- ②渡辺靖『沈まぬアメリカ 拡散するソフト・パワーとその真価』（新潮社、2015年）
- ③兼子歩・貴堂嘉之編 『「ヘイト」の時代のアメリカ史——人種・民族・国籍を考える』（彩流社、2017）

注：アメリカ地域文化論を未履修の場合には、鈴木透『実験国家アメリカの履歴書（第2版）』（慶應義塾大学出版会、2016年）も必ず事前に通読すること。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻の認定を目指さない学生、1年間だけの履修、他学部生も履修を歓迎します（ただし、半期だけの履修は認めません）。また、副専攻認定のためには、日吉設置のアメリカ研究に関連する「地域文化論 I～IV」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で（これ以外の科目の認定に関しては個別に相談を受け付けます）、三田設置の研究会を2年間履修し単位取得すること（卒業執筆を含む）が必要です。

その他：

アメリカ文化専攻の個別説明会（奥田暁代先生、大和田俊之先生と合同）

日時：12月9日（木）：12時20分より12時50分

教室：日吉 D201 教室

Zoom 中継はこちらから↓

<https://keio-univ.zoom.us/j/83638064041>

（セッティングのため多少遅れるかもしれませんが、12:20 分くらいからストリーミング予定です。）

問い合わせ先：michioari@keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：いそざき あつひと磯崎 敦仁

テーマ：北朝鮮研究

授業内容：

北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)を題材に、自らの問題意識を鮮明にし、それを解明する力を養う少人数授業。

春学期には、北朝鮮に関する文献を輪読する。この「近くて遠い国」に対する知見を深めるのみならず、学術論文の読み方と議論の方法を学ぶのが目的である。

秋学期には、輪読を継続するとともに、各自の関心にもとづいた研究発表を行う。研究報告の技法を学び、4年次の1月に論文を提出することになる。

事前の準備：

(1) 次の文献を必ず読んでおくこと。

平岩俊司『北朝鮮——変貌を続ける独裁国家』中公新書、2013年。

和田春樹『北朝鮮現代史』岩波新書、2012年。

菊池嘉晃『北朝鮮帰国事業——「壮大な拉致」か「追放」か』中公新書、2009年。

(2) 北朝鮮に対する自らの関心事項について2,000字程度で整理しておくこと。春学期初回授業での提出を要する。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論(東アジア・朝鮮半島)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

地域文化論(東アジア・中国)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

人文科学特論

その他：

- ・ 毎回相当な準備を要するため、履修には相応の覚悟が必要である。
- ・ 2年間履修して確実に論文を執筆できる、積極的な学生のみ受け入れる。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：お お く ぼ の り ひ ろ 大久保 教宏

テーマ：世界の宗教と社会

授業内容：

世界各地で現在起きている様々な問題や歴史上の出来事に宗教がどのような影響を及ぼしてきたかを探りながら、宗教と社会の関係について考察していきます。世界の多くの地域において、宗教の影響力は想像以上に大きく、宗教に関する知識を深めておくことは、将来海外で活躍しようとする諸君にとって、大いに意義のあることでしょう。

授業では、まず宗教に関する研究を行う際に必要な知識や方法を習得するための基本的文献や、世界各地の宗教問題を扱った研究書を講読します。その作業の中で、自分の研究テーマを絞り、研究発表を数回行って、2年間で修了論文としてまとめてもらいます。これまでの履修者は、震災と宗教、フェミニズムと宗教、日本人は無宗教か、ヨブの救い、オンライン上の宗教、道徳と宗教、フランスのライシテ、国家神道などを研究テーマとして取り上げてきました。

必ずしも副専攻の認定を目指さなくてもかまいません。

事前の準備：

担当者がどのような研究をしているか知りたい場合は、次の3点を読んでみてください。

- 1) 大久保教宏 『プロテスタンティズムとメキシコ革命』 新教出版社、2005年
- 2) 大久保教宏他編 『ラテンアメリカ 出会いのかたち』 慶應義塾大学出版会、2010年
- 3) 大久保教宏他 『世俗化後のグローバル宗教事情』 岩波書店、2018年

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻としての認定を受けるためには、1～2年生のときに自分が扱う研究テーマに関連した科目を8単位分履修しておいてください。宗教に直接関連した科目は多くないので、各自の関心のある地域を扱った科目（地域文化論Ⅰ～Ⅳなど）を履修しておくといでしょう。

その他：

12月6日（月）12時20分～50分 13教室にて、折井先生、浜田先生と合同で説明会を開きますので、興味のある方は参加してください（昼食持込可）。

大久保は三田で大学院社会学研究科の授業も担当しています。学部卒業後、社会学研究科に進学して宗教研究やラテンアメリカ研究を行うことに関心があるなら、ぜひ履修してください。

質問は okubons@a5.keio.jp まで。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： おおで 大出 あつし 敦

テーマ： 日仏交流

授業内容：

この研究会では、広く日仏交流をテーマにしようと思います。日仏交流は日本の江戸末期、フランスの第二帝政期から本格的に始まりますが、みなさんのなかには 19 世紀に印象派などを巻き込んで一大ブームとなったジャポニスムや近年のマンガブームなどを思い浮かべる人も多いと思います。交流というと何だか友好的なイメージがありますが、実際には誤読と緊張関係があつて、初めて創造的な営みが産まれます。実際、浮世絵だってマンガだって日本では伝統的に B 級品の扱いで、芸術の周縁にあったものです。それをフランスが新しい芸術と誤読し、その考えが逆輸入されて初めて日本でも芸術作品と認識されるようになった歴史があります。みなさんにも身近なところから日仏の交流を見つけ出し、それがどのような展開を示してきたのかを探求してもらいたいと思っています。意外なものや出来事が、文化的現象、政治的・経済的な事件と接触を持ってくるというスリリングな発見を楽しめると思います。授業では、日仏交流の理解を深めるためにフランス人が書いた日本論を読書会形式で輪読するとともに、論文作成のための発想法、テーマの選定の仕方や絞り方、アウトラインの組み立て方、論文の書き方を実践していきます。この実践を基にみなさんには各自で日仏交流に関するテーマを選び、論文を作成してもらいます。

事前の準備：

「私たちは、主観的観点からしか客観という理想を発展させられない」(マルクス・ガブリエル)ということのを心がけて下さい。閃きや思いつきは論究の種ですので、大切に育ててあげて、客観的な成果としてアウトプットできるようにして下さい。事前に準備しなければならないものは、特にありませんが、時間のあるときに以下のような参考文献を読んでおいて下さい。

- ・大出 敦・直江健介『プレゼンテーション入門』、慶應義塾大学出版会、2020 年
- ・大出 敦『クリティカル・リーディング入門』、慶應義塾大学出版会、2015 年

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

日吉に設置されている「地域文化論 (フランス)」「文学」「人文科学特論」などの人文科学に関する科目を履修してあることが望ましいですが、特に制限はありません。疑問があつたら以下のメールアドレスに連絡して下さい。

その他：

履修に関する質問等は以下のメールアドレスにして下さい。 atsushiode@keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{おおばや}大隼 エヴァ

テーマ：映像から読み取れるアラブ世界

授業内容：

「アラブ世界」は23の国々を内包しているが、アラブについて語られるときはよく十把一絡げされることがよくある。この授業では、映像を通して、アラブ世界に対する理解をより深め、アラブ諸国の多様性に焦点を置いて、話題性に富むその世界に対して自分の意見を持つことが目的とする。春学期には、様々な映像（映画、ニュースなど）を通してアラブ世界に関する知識を身に着けた上、秋学期は各自が選ぶ研究発表を行う。

事前の準備：

以下の文献を読むことを勧める。

Margaret K. Nydell. 2018. *Understanding Arabs, 6th Edition: A Contemporary Guide to Arab Society*. Intercultural Press. London.

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

人文科学特論（アラブ思考法）Ⅰ、Ⅱ

地域文化論（アラブ世界）Ⅰ、Ⅱ

その他：

- アラブに関する日本語の映像は非常に少ないため、英語のものを多く使用することになる。内容を日本語でまとめたりするが、英語の内容を何とか理解できる、または、理解しようと試みる必要がある。
- 少人数と予想される。そのため、発表の担当が回るペースが速いと思われる。
- 履修を勧める科目を取ることができなくても良いが、積極的に取り組むこと。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{おおわだ}大和田 ^{としゆき}俊之

テーマ：アメリカ文化研究

授業内容：

本研究会ではアメリカの音楽文化を中心に持ち上げ、少人数の演習形式で論文などを講読する。R&B、ヒップホップ、ジャズ、ブロードウェイ・ミュージカル、カントリー、ロック、ブルースなどアメリカの音楽ジャンルを歴史や社会とのかかわりにおいて考察し、音楽文化のさまざまな分析手法を学ぶ。必ずしも熱心な音楽ファンである必要はなく、むしろ文化研究や批評理論などに関心がある学生も歓迎する。

個々の研究テーマとしては、音楽とジェンダー／人種／階級、ファン・コミュニティの様相、音楽著作権の歴史、テクノロジーと音楽文化、音楽配信の未来などがあるだろう。また、日本のポピュラー音楽文化との関係も視野におきながら議論を進めたい。三年生は主として三田祭で配布する同人誌の編集作業に取り組み、四年生は卒業論文の完成を目的とする。

事前の準備：

副専攻認定を希望しない学生の履修も認めるが、アメリカ史に関する基本的な知識を学習しておくこと。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻認定のためには日吉設置の「地域文化論（アメリカ）ⅠからⅣ」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、当研究会を2年継続して履修・単位取得することが必要。

その他：

アメリカ文化専攻の個別説明会（奥田暁代先生、大和田俊之先生と合同）

日時：12月9日（木）：12時20分より12時50分

教室：日吉 D201 教室

Zoom 中継はこちらから↓

<https://keio-univ.zoom.us/j/83638064041>

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：奥田 暁代
おくだ あきよ

テーマ：アメリカの文化と社会

授業内容：

アメリカ研究(American Studies)の研究会です。おもに人種／エスニシティに関わる問題を取りあげています。履修者各自が決めたテーマで研究発表を行い、論文を執筆します(論文集を作成)。

授業では、文献を読みながら、おもに発表／ディスカッションを通じてアメリカについての知識を養います。2021年度春学期は、Black Lives Matter 運動が盛り上がりを見せている現在の動向を踏まえて、アフリカ系アメリカ人の思想家ベル・フックス(bell hooks)の『「フェミニズム理論——周辺から中心へ——」』(*Feminist Theory: From Margin to Center*, 1984年)を精読しながら、歴史的な視点から黒人女性の運動について考察しました。また秋学期には、アリシア・ガーザ(Alicia Garza)の『世界を動かす変革の力——ブラック・ライブズ・マター共同代表からのメッセージ』(*The Purpose of Power: How We Come Together When We Fall Apart*, 2020年)から適宜章を選び、現在の運動について、文化・社会・歴史の側面から考察しています。

2022年度は、アフリカ系アメリカ人の歴史家イブラム・X・ケンディ(Ibram X. Kendi)の『アンチレイシストであるためには』(*How to Be an Antiracist*, 2019年)を取りあげます。全米図書賞を受賞した *Stamped from the Beginning: The Definitive History of Racist Ideas in America* (2016年)に言及しながら、人種差別の歴史を振り返り、現在のアメリカ社会・文化に与えた影響について考えます。歴史や文化について考察することで、レイシズムの深層を探ります。

事前の準備：

日吉設置の「地域文化論(アメリカ)」を履修しておく、あるいはアメリカの文化や社会に関する本を読んでおくことが望ましいですが、必須ではありません。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

「地域文化論(アメリカ)」、「人文科学特論」(アメリカ文化関連)

その他：

法学部副専攻認定のためには、日吉設置の「地域文化論 I～IV」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、研究会を2年継続して履修してください。

12月9日(木)の昼休み12時20分より12時50分まで、日吉D201番教室においてアメリカ文化専攻の個別説明会を大和田俊之先生と有光道生先生と合同で行います。Zoom中継はこちらから。

<https://keio-univ.zoom.us/j/83638064041>

問い合わせ先：aokuda@z2.keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{おりい}折井 ^{よしみ}善果

テーマ：イベリア半島の文化と社会

授業内容：

本研究会はイベリア半島（スペイン・ポルトガル）の文化や社会について興味のある人を対象にしています。

多民族・多言語で構成されるイベリア半島は、民族とは何か、言語とは何か、国家とは何か、等について考える多様な視点を提供してくれます。本年度は現代のスペインが“大航海時代”の植民地支配、あるいは20世紀の独裁政権、といった過去の歴史と、いかに向き合おうとしているのか、という問題を中心に進めたいと思います。担当者が集めた資料（邦訳・英訳での参加可）を読み進め、参加者同士の発表を通じ、現在私たちが住む日本の歴史認識をめぐる諸問題との共通点や、違いを見出していければと思います。

課外活動として、セバンテス文化センターでの映画鑑賞会やスペイン・ポルトガル料理探訪などの課外授業を行う予定です。

なお、これまでの副専攻論文の題目は以下の通り。「Marca España: スペインのスポーツ外交」、「アントニ・ガウディとその建築」、「フランコ時代における検閲と芸術について」、「独立“するする詐欺”のカタルーニャ」、「バスクの特殊性とプライド：サッカーという視点から」、「E C加盟前後のスペイン経済」等々。

事前の準備：

初回の授業で、おおよそ自分が興味を持っているテーマについてお聞きしますので、考えておいてください。一つに決められない場合は、いくつか提示してください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻としての認定を希望している人は、なるべく1～2年生のときに、自分が扱うテーマに関連した科目（外国語科目は除く）を8単位分履修しておいてください。その科目の組み合わせは自由ですが、地域文化論Ⅰ、Ⅱ（イベリア半島）、地域文化論Ⅰ～Ⅳ（ラテンアメリカ）のいずれかの単位が少なくとも2単位含まれることが望ましいです。

その他：

12月6日（月）12時20分～50分13教室にて、大久保先生、浜田先生と合同で説明会を開きますので、興味のある方は参加してください（昼食持込可）。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：かさい ひろゆき 笠井 裕之

テーマ：詩を読み、詩を書く

授業内容：

詩は「ことば」を扱う芸術のうち、もっとも先端的な領域です。文学のほかの領域とも、また哲学・思想、科学、音楽、美術とも相互的に作用する可能性があり、そしてなにより「ことば」そのものと直に対峙する機会であるからです。

この研究会では、おそらく普段あまり読まれていないであろう「現代詩」を読み、とりわけ書くことを通して「ことば」のもつ根源的な力とその働きについて体験的に学びます。

参加者には各学期に数回、作品の提出を求め、全員で合評をおこないます。書かれたばかりの作品の最初の読者となること——同世代の仲間との相互批評はみなさんに大きな刺激を与えてくれることでしょう。

年度末に成果物として合同の詩集、また各自の個人詩集を制作します。この研究会は他大学の詩の講座と連携する「インカレポエトリ」のプロジェクトに加わっているため、大学の枠を越えて作品を発表する可能性も開かれています。「インカレポエトリ」の Twitter：[@incollepoetry](https://twitter.com/incollepoetry)

事前の準備：

笠井担当の「人文科学特論」(日吉・法学部)あるいは桑川麻里生氏担当の「文章と表現」(三田・文学部)で実作の経験を重ねていることが履修の前提となりますが、「詩を読み、詩を書く」ことが生きるために必要と思う人なら、どなたでも参加できます。まずは授業の Web サイト hirokas.com を閲覧してみてください。サイトにはパスワードがかかっているため希望者は笠井にメールで連絡してください。研究会の履修に関する質問も遠慮なくどうぞ。メールアドレス：kasai@keio.jp

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

上記の笠井担当「人文科学特論」、桑川氏担当「文章と表現」。その他、「文学」をはじめジャンルを問わず文学系・芸術系の科目。

その他：

法学部副専攻認定のためには、文学と芸術に関わる内容を含む日吉設置の授業から 8 単位以上を履修した上で、この研究会を 2 年継続して履修してください。

副専攻の認定を目指さない学生、また他学部生も歓迎します。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：片山 かたやま 杜秀 もりひで

テーマ：日本の思想と文化

授業内容：「日本の思想と文化」について学ぶ研究会です。みんなで学び、個々人でも学んでもらいます。みんなで学ぶというのは、履修者全員で文献を読むということです。「日本の思想と文化」を知るための基礎的文献を、その年の履修者の志向に配慮しながら、なるべく幅広く読んで、報告して貰い、疑問を出し合い、討論します。視聴覚資料の鑑賞も行います。共通文献としては、西田幾多郎、田辺元、三島由紀夫、岡倉天心、鈴木大拙、折口信夫、保田與重郎、丸山眞男などを取り上げてきました。個々人で学ぶというのは、個人でテーマを持って個人研究してもらうということです。グループ研究もありえます。研究の対象は幅広く許容します。これまでのメンバーの個別研究テーマは、三島由紀夫、大江健三郎、安部公房、水上勉、野田秀樹、土方巽、赤瀬川原平、石原吉郎、山田耕筰、岡崎京子、二・二六事件、戦争画、戦艦大和、生類憐みの令、日蓮、歌舞伎の女形、YMO、禅、京都、ゴジラ、新宿、アジア経済研究所、青年、自動車などです。授業の形態は、輪読、視聴覚資料鑑賞、個別テーマの発表、見学、その他を組み合わせでゆきます。普通のゼミのやり方だと思います。合宿も例年ですとどこかの季節に一回行っています。副専攻として履修する場合は、遅くとも3年生の秋学期のうちには個別の研究テーマを確定してもらい、4年生のときに論文かそれに相当する何らかを提出してもらいます。

事前の準備：履修を希望する方は初回の授業に必ず出席してください。その際、「履修希望の理由、自分の興味関心、何を研究してみたいか」を1000字程度にまとめて持参してください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：担当者の科目。

その他：履修希望者数がゼミ形式というには多いとか、その他何らかの理由があれば、初回の授業で選考します。上記の作文が選考の主要な材料となるでしょう。副専攻の認定に必要な単位として何が認められるか認められないかについては個別に相談しましょう。副専攻の認定を求めない方の履修も可能です。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：許 ^{きよ} ^{みつとし} 光俊

テーマ：小説を読む、書く

授業内容：毎回さまざまな小説を読み、みな（少人数）で論じます。この数年で取り上げたのは、三島由紀夫、ポー、芥川龍之介、菊池寛、ペルッツ、カミュ、大江健三郎、デュラス、三木卓、川端康成、深沢七郎などなど。全般的な傾向として、当たり前のある有名作や名作ではなく、変な作品、奇抜な作品を選びます。たとえば、三島が匿名で同性愛雑誌に発表した『愛の処刑』では、生徒が先生に切腹を強要したあげく、愛を告白します。また、大江や深沢の場合は右翼を怒らせてお蔵入りした作品など。川端『雪国』は、子供にはわからないように書いているけれど、露骨なセックスの話だと気づけば、まじめな顔をしてこんなものを書いていたのかと驚く小説です。

学期末の課題は、短編小説を書くこと。毎回テーマが決まっています。これまでのところ、名作の続編、天皇小説、ホラー小説、不倫小説などなどです。みなさん、なかなかレベルの高いものを書いていて感心させられます。やればできます。

事前の準備： 毎回課題を読んできてください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：文学に関する授業。

その他：副専攻認定を積極的に受けてください。作品論、作家論を書いてもよし、2年間で書いた短編小説4つを磨いて、短編集にしてもよし。相談してください。

受講したい人は、あらかじめ知らせてください。warumono@keio.jp
あまり受講希望者が多いときは選抜するかもしれません。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当くましろ としゆき者：熊代 敏行

テーマ：ことばの分析—認知言語学の手法を用いて

授業内容：

本研究会では、認知言語学の手法を用いて、実際にことばを分析してもらおうと思います。対象の言語は、日本語でも英語でも、その他の自分の興味のあるどんな言語でもかまいません。その中でも、日本語のネイティブとして、普段使用している日本語の言い回しを分析し、いかに複雑極まりない使い分けを難なく使いこなしているかということに気づいてもらうのがよいかと思います。

言語学のアプローチとしては、認知言語学の視点から分析に取り組んでももらいたいと思います。認知言語学は多義語の分析においては、特に優れており、単語レベルでの語義の分析には最適の手法です。もっと複雑な文レベルの言い回しでも、認知言語学はボトムアップの手法を採用するので、実際のデータを集め、そこから規則性を見出すという「発見の喜び」も体験してもらえんと思います。

副専攻科目として履修を希望する学生も、通常の授業として履修する学生も、他学部の学生も等しく歓迎します。授業は、気になることばについて、調べ、発表し、フィードバックをもらうという流れになります。そして、可能であれば、それを論文という形でまとめることを目指してください。

受講希望者は、初回の授業に参加するか、もしくはその前に下の担当者メール・アドレスに受講を希望する旨を連絡して下さい。

事前の準備：

副専攻として本研究会を受講する学生は、日吉で言語学Ⅰ～Ⅳや言語関連の人文科学特論を履修していることが求められます。

何より、気になる言い回しを普段から探しておきましょう。「カモシカのような脚」は果たしておかしいのか、まだ終了していないのに「アプリを終了しています」というのはどういうことか、“Black lives matter!”がどうして日本語では「黒人の命も大事！」になるのか、「いつ総選挙が行われるのかどうかかわらない」はどこがおかしいのかなどなど、日常の日本語に注意を向けておいてください。①の本は、そんな気になる言い回しを解説した本です。

①北原保雄 編著 (2004-2011), 『問題な日本語』, 『続弾！問題な日本語』, 『問題な日本語 その3』, 『問題な日本語 その4』, 大修館書店。

認知言語学の参考図書としては、アプローチを手っ取り早く知りたい人には、②を、概要を知りたい人には③を、さらに詳しく知りたい人には④をお勧めします。

②西村義樹・野矢茂 (2013), 『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』, 中央公論新社。

③野村益寛 (2014), 『ファンダメンタル認知言語学』, ひつじ書房。

④ジョン R. テイラー (2008), 『認知言語学のための14章』, 紀伊国屋書店。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

法学部設置の言語学Ⅰ～Ⅳ、人文科学特論(言語をテーマとするもの)。

その他：

履修に関する質問は、メール(tkumashi@keio.jp)で随時受け付けます。お気軽にどうぞ。参考までに、過去の学生による研究テーマをいくつか挙げます。「アンジャッシュのコントの言語学的しかけ」、「若者ことばの意味的・音韻的特徴」、「若者の広島方言の特徴」、「Web記事のタイトルの誘導性」。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{くまの や}熊野谷 ^{ようこ}葉子

テーマ：ロシアの文化と社会

授業内容：

この研究会では、ロシアの文化と社会に関してお互いに報告しあい、議論を通じてロシア理解を深めます。基本的に参加者がテーマを決めて1学期または1年かけてそのテーマを追求し論文を作成することを重視し、互いのテーマに関心を持って共に学びます。例えば、2020年度はロシア昔話のバーバ・ヤガーについて、またソ連時代の有名画家アレクサンドル・デイネカについての論文が書かれました。2021年度はIT大国エストニア、知られざるロシア革命歌「労働者のマルセイエーズ」、エルミタージュ美術館の活動意義、チェーホフの「かもめ」再読、昔話における「贈与者」について、などさまざまなテーマについて毎回新しい情報を交換しつつ論文を製作、三田祭やロシア語フェスタでも発表を行いました。

自分の興味のあるテーマについて、どこまでも深めていけるのがこの研究会です。ロシアだけでなく旧ソ連やスラヴ諸国を対象にしてもかまいません。ロシア語の知識は問いませんが、自分の持てる知識や能力はどんどん発揮してお互いに協力して勉強していきましょう。

副専攻の認定を目指す人は、2年間履修して研究を続け、卒業論文に匹敵する論文を作成します。相談してください。

事前の準備：

皆で勉強したいテーマ、自分が論文にしたいテーマについて、初回の授業で話せるよう考えておくこと。副専攻の認定を目指す人は、これまでに単位を取得した科目を確認し、卒業論文に相当する論文を提出できるよう、論文のテーマを考えておきましょう。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論ロシア I, II, III, IV

その他：

ロシア語の知識はなくても構いません。ただ皆さんがそれぞれに持っている能力や知識は積極的に利用してほしいと思います。外国語ができればそれだけアクセスできる資料や文献が広がりますし、音楽でも歴史でも政治でも、持っている情報は互いに共有しましょう。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：佐藤 元状^{さとう もとのり}

テーマ：21 世紀の映画研究（ヨーロッパ、アジア）

授業内容：

本研究会では、ヨーロッパとアジアの映画を毎回視聴し、その後1時間近く視聴した作品について全員でディスカッションをしていきます。春学期は、ヨーロッパの現代映画を、秋学期は、日本、台湾、タイ、香港、中国、フィリピンの現代映画を扱う予定です。ヨーロッパとアジアの視聴覚的な感性の差異と同一性について、現代の映像メディアの政治的・美学的な可能性について徹底的に議論を重ねていきます。1年後には、国際的な感性を備えた映画批評家が研究会から生まれてくるでしょう。映画監督の道を進みたい学生さんや、映画研究者を目指す学生さんにおすすめの授業です。これまで、このゼミは映画監督、映画批評家、映画研究者を輩出しています。

事前の準備：

事前の準備は入りませんが、なにかを新しく学びたいという気持ちを大切にしてください。知的にエキサイティングな授業ですが、忍耐力と柔軟性が必要です。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

人文科学特論、地域文化論、文学など、日吉で人文科学系の授業をきちんと履修しておいてください。副専攻としては、「イギリスの社会と文化」、または「芸術」での副専攻が望ましいと思います。ただし、個別に相談にのります。

その他：

質問があれば、メールをください！ motsato@a7.keio.jp 毎年「論文集」を刊行しています。知的なメンバーに囲まれた有意義な時間を一緒に過ごしましょう。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：三瓶 慎一
さんべ しんいち

テーマ：現代ドイツ研究

授業内容：

現代ドイツの政治・社会・言語・文化に関する種々の問題を扱います。参加者の関心に応じて、自力で資料を集め、Referat にまとめて発表し、全員で議論を重ねることで、最終的に1つの論文に仕上げることを目標です。

これまで扱ってきたテーマとしては、いくつか例を挙げると、戦後ドイツの歩み、東西ドイツ分断の経緯、東西ドイツ国境事情、東ドイツの政治文化、ベルリンの壁の建設と崩壊、各政党の成立と政策、社会民主党の歴史、ヴァイリー・ブランド、兵役義務、ドイツ語の人名、ドイツと日本の言語政策、戦後ドイツの知識人、政治教育の現状、68年世代と緑の党の誕生、1990年代のドイツ、ドイツの脱原発政策、憲法愛国主義、ヤスパースによる「罪」の分類、東西ドイツ統一の背景、ホロコーストと過去の克服、ドイツの安全保障政策、日独の駐留軍地位協定、想起の文化などでした。この他のテーマもちろん歓迎です。

なおドイツ連邦共和国に関する問題を中心としますが、参加者の希望によっては、ドイツ語圏の他の国々についてのテーマを扱うことも妨げません。

事前に準備しておくこと：

副専攻認定を希望する場合は、要項の当該部分を熟読しておいてください。**個別説明会は12月2日(木) 12時20分～12時50分にJ431B教室で行います。**なおドイツ研究には、日本語文献のみならず、ドイツ語の文献に当たることが重要です。そのため、この研究会ではドイツ語ができる人はドイツ語の文献の参照、また新聞、雑誌、インターネット、ラジオニュースなどによって、最新情報の収集をすることができます。従って、ドイツ語ができることを必須とはしないものの、**現代ドイツに関心があり、なおかつドイツ語学習経験があって、ドイツ語を学ぶことが好きであるという諸君の参加を歓迎**します。しかし所属学部等は問いません。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論Ⅰ～Ⅳと、その他、ドイツの政治・社会・言語・文化等に関わる科目

その他：

参加申し込み、問い合わせは、deutschlandseminar@sambe.jp に直接メールを送って下さい。随時受け付けています。返答に数日かかる場合もありますが、必ず返信するので了解してください。送信の際、件名は「人文研究会参加希望」「人文研究会問い合わせ」のように。参加申し込みをした諸君には、エントリーシート書式、受講前の課題図書を数点挙げたリストを送ります。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当ながしま ゆう者：永嶋 友

テーマ：イギリス文化・社会とメディア

授業内容：

2022年度に初めて設置される研究会です。イギリス文化・社会とメディアについて広く深く学びます。イギリス以外の国に議論を発展させることも可とします。ここではメディアを広い意味でとらえます。つまり、インターネット、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等だけではなく、言葉、映画、漫画、アニメ、スマホ、広告、印刷・出版、衣服、住居、貨幣、電車、自動車、飛行機、ロボットなど、媒介性を有するものすべてを指します。また、文学、文化、社会、歴史、思想、法律、政治などの多分野を横断する研究をぜひ目指してください。授業内容や研究会の活動内容は、参加者と相談しながら、できる限り柔軟に決めていきます。活気あふれる研究会を一緒に作っていきましょう。

前期は、マーシャル・マクルーハン『メディア論——人間の拡張の諸相』(Marshall McLuhan, *Understanding Media: The Extensions of Man*)、伊藤守編『ポストメディア・セオリーズ——メディア研究の新展開』、Martin Conboy and John Steel, eds., *The Routledge Companion to British Media History*、Jentery Sayers, *The Routledge Companion to Media Studies and Digital Humanities*などを一緒に読む予定です。他の重要資料、英文資料をどの程度扱うか、輪読の際に担当者による発表形式を取るか否かなどは様子をみて決めていきます。後期は、各々の研究のプレゼンテーションやワークショップや論文執筆に取り組んでももらいます。各々好きなテーマで研究を進めてもらい、できれば3年生の後期までに、遅くとも4年生の前期までに卒業論文のテーマを確定し、4年生の1月に卒業論文に相当する論文を提出してもらいます。論文集の刊行、noteなどのオンラインプラットフォームでの論文公開などを検討しています。リクエストがあれば、夏季・春季休暇中や三田祭における活動等も検討します。

事前の準備：

特にありません。飽くなき探究心・情熱を持って研究会に臨んでください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論（イギリス）I～IVや人文科学特論をおすすめします。

その他：

副専攻認定を目指さない学生、1年間のみの履修、他学部生も歓迎します。ただし、半期だけの履修は認めません。また、副専攻認定のためには、日吉設置の関連科目8単位以上、三田設置の関連研究会8単位以上、卒業論文に相当する論文の提出が必要です。研究会に関する問い合わせや個別相談は yu.nagashima@keio.jp にメールをお願いします。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：^{ならはし}檜橋・アンリ，ナタリー

テーマ：Société française

授業内容：

Dans ce séminaire, nous nous penchons sur divers aspects de la société française, d'une part par l'étude d'un thème commun à partir de documents, d'autre part à travers les thèmes de recherche de chacun, choisis selon les intérêts (quelques exemples de thèmes étudiés : la laïcité, la parité en politique, le mariage pour tous, l'emploi des personnes handicapées, la discrimination dans le monde du football). Les thèmes de recherche individuelle sont discutés en groupe afin d'en dégager la problématique, et définir un plan de recherche. Les avancées de la recherche sont ensuite régulièrement exposées, et discutées, le travail doit finalement mener à la rédaction d'un rapport.

Le but de ce séminaire est l'acquisition de connaissances sur la société française, par les discussions la pratique de l'échange d'idées, et de plus, les sessions se déroulant en français, de permettre un approfondissement des compétences en langue française.

事前の準備：

La langue du séminaire est le français, il est donc nécessaire d'avoir un niveau satisfaisant de compréhension et expression orales. De même, un bon niveau de compréhension écrite est demandé pour avoir accès aux documents en français.

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

Tous les cours ayant la société française ou un de ses aspects pour sujet, ou en traitant, sont considérés en rapport avec ce séminaire.

その他：

質問、相談は nhenry@keio.jp までどうぞ。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者はまだ かずのり
担当者：浜田 和範

テーマ：ラテンアメリカの文化と社会

授業内容：

「リオ・グランデからパタゴニアまで」、ポルトガル語圏のブラジルも含めたラテンアメリカの文化と社会に関し、発足1年目(!)らしく何でも来いの精神で迎え撃つゼミです。

担当教員の専門分野の関係上、春学期は20世紀ラテンアメリカ文化の歴史的展開に関する文献の講読を行い、基礎知識の確認・深化に努めます。それと並行する形で、履修者各自の研究テーマやアプローチの仕方を固めていきます。秋学期では定めた研究テーマに基づき、プレゼンテーションと討論、ピアレビューを重ねながら論文を完成させます。

深く馴染んできた場所についてさらに理解を深めるもよし、人生でまったく縁のなかった場所がどういうわけか気になって調べてみないと気がすまない、もよし。私は後者でした。とはいえ最終的には、それを学問的対象として「論じる」のだという心構えのもと、準備を進めていくことになります。常にアウトプットを意識し、実践を心がけましょう。

事前の準備：

4月時点での履修者の興味関心として参考にするため、「自分の興味関心」について1000字程度でまとめ、初回授業時に提出してください。

また書籍や芸術作品はもとより、日常生活での何気ない風物も含めラテンアメリカに関する様々な出会いを重ねておいてほしいと思います。その上で大小様々の問いを立ててくれたならば、言うことなしです。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻認定を目指す場合は、「人文科学特論」「地域文化論」「文学」といった科目のうち、自分の研究テーマに関連する授業を履修しておくこと。ラテンアメリカ、スペイン語圏関連のものが含まれていることが望ましいですが、必ずしもその必要はありません。自分の学んできたことをラテンアメリカという対象に注ぎ込んで思考を開拓できるならば、それこそが関連する科目と言えるでしょう。

その他：

副専攻認定を目指さない学生、ならびに他学部生の履修も歓迎します。

12月6日(月)12時20分～50分、13教室にて、大久保先生、折井先生と合同で説明会を開きますので、興味のある方は参加してください(昼食持込可)。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：やすだ じゅん
安田 淳

テーマ：中国及び東アジアの安全保障

授業内容：安全保障は、人文科学を含む多領域に及ぶ複雑かつ興味深い問題です。この研究会は、少人数のゼミ形式で、主として中国や東アジアの安全保障を学び、この地域の安全保障環境についての問題意識を高め理解を深めることを目的とします。取り上げる題材にはこの地域の軍事はもちろんのこと、領土、エネルギー、環境、交通、歴史、宗教、文化、教育、外交関係等があり、広く履修者諸君の要望を汲み上げます。

春学期には、基本的な知識を習得・整理するための講義や文献講読を行います。秋学期には共同研究発表や卒業論文作成に向けた中間報告発表・討論を行います。その他に、夏合宿(9月)と冬合宿(12月)を行い、文献講読や研究発表、パソコンを用いたシミュレーション研究等も実施する予定です。また例年、安全保障関係者によるブリーフィングや関連施設の見学・研修等も実施しています。

事前の準備：まず、中国や東アジアに対する興味・関心や問題意識を持つことが大前提です。

この研究会活動をより効果的、効率的に進めるため、履修希望者は、初回授業時に指示された一定期間内(約1か月)に、レポートやサブノートの提出を課すことがあります。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：地域文化論(中国・東アジア)、人文科学特論(中国・東アジア)をはじめとして、日吉、三田を問わず中国や東アジアに関連する科目、安全保障に関連する科目を広く推奨します。

副専攻認定のために必要な「関連する科目」としては、この研究会で学び作成した卒業制作(論文等)と、自分が研究会以外に履修した科目とが、どのように関連するかを自ら考え、説明できれば、広く認定します。

その他：新3、4年生いずれも履修することができます。履修希望者は、前向きかつ積極的に研究会活動に臨んでください。

Eメール(jyasuda@keio.jp)で遠慮なく質問・相談してください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：横山^{よこやま} 千晶^{ちあき}

テーマ：イギリス人とはだれか・イギリス文化とは何か

授業内容：イギリス、と聞くと皆さん方が想像する人々や文化は何でしょうか。2020年から猛威を振るいだしたコロナウイルスは、目に見えないながらも明確に存在し続けてきた人々の分断と格差を明るみに出しました。そんな中で Black Lives Matter 運動は地球規模での広がりを見せたのです。今、あらためて私たちは、「歴史」と呼ばれるものの意味、そして「歴史」を教育・知識として次世代に伝えることの意義と方法を模索し始めています。この研究会では、ウィンドラッシュ世代など移民2世や3世からみた現代の「イギリス」を文学や音楽（そして映画やダンスも時々）を中心に考えてみたいと思います。読み物は授業の中で紹介していきます。

担当者の専門は19世紀のイギリスですので、決してこの分野に詳しいわけではありません。しかし、歴史はつながっています。途切れているものではありません。またイギリスでの出来事が私たちの住む日本という国と無関係なわけではありません。そのような視点から、共に学び合っていく授業にしたいと考えています。また、授業では、読んで調査したことを手掛かりに、論文のみならず、皆さんにも創作をしていただきます。

事前の準備：1～2年生の間にイギリス地域文化論だけではなく、ほかの地域の文化論などで、広く格差やBLM運動などについて学んでくださることを望んでいます。また、自分が慣れ親しんでいる文学や音楽などに社会的な視点が反映されているかどうかもう一度見つめなおしてみてください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：副専攻としての認定を望む場合は、「地域文化論」や「人文科学特論」、その他、論文や創作に向けてご自分の興味のある科目を積極的にとっていただきたいと思います。また適宜相談に乗ります。

その他：授業は対面で行います。何か質問がありましたが、chacky@keio.jp まで遠慮なくお聞きください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：林^{りん} 秀^{しゅう} 光^{こう}

テーマ：自然科学と人文科学の架け橋——環境史を学ぶ

授業内容：

本研究会は、災害、資源開発、環境保護にまつわる自然と人間社会の葛藤について、環境史という新しい「知」を学び、現代に生きる者としての理解と見識を得ることが目標である。また、中国をはじめ東アジアにおける環境史研究の動向を把握し、自分なりに問題を発見することに期待したい。

環境史研究の代表的な著作や論文を中心に輪読し、発表担当者を決め討論する形式をとる。関連文献は日本語訳がない場合、英語または中国語を利用する。

主要文献：

J. ドナルド・ヒューズ著『環境史入門』岩波書店、2018 年。

ウィリアム・H. マクニール著『疫病と世界史』上、下、中公文庫、2020 年。

アルフレット・W. クロスピー著『ヨーロッパの帝国主義—生態学的視点から歴史を見る』
ちくま学芸文庫、2017 年。

J. R. マクニール著『20 世紀環境史』名古屋大学出版社、2011 年。

唐納徳・ワース特著《帝国之河一水、干旱与美国西部の成長》譯林出版社、2018 年。

Elizabeth C. Economy, *The River Runs Black: The Environmental Challenge to China's Future*,
Cornel University Press, 2003.

事前の準備：

入ゼミ選考は行わないが、下記課題図書を手に入れてください。

J. ドナルド・ヒューズ著『環境史入門』岩波書店、2018 年

また、『法学研究』および『教養論叢』にて発表された担当教員の中国長江三峡ダムに関する一連の論文（2015 年以降）にも目を通し、テーマへの理解を深めておくことが望ましい。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

特に定めないが、法学部設置の中国関連地域文化論を履修することが望ましい。

その他：

現代中国政治関連の研究会所属者以外で、この分野に興味があり勉強してみたい場合、ご相談ください。

ご不明な点があれば、担当教員の下記 email までご連絡ください。

xlin@z8.keio.jp

法学部副専攻認定制度
自然科学研究会
(3・4年生)

担当者：おの ひろたけ 小野 裕剛
テーマ：生命科学にかかわる諸問題
授業内容： 皆さんの主専攻は法律学や政治学ですが、生命や環境に関連した分野を扱うことは少なくありません。このクラスではその背景を掘り下げたいと希望する学生を対象とし、資料(英文原著論文など)の読解を通じて、背景となる生物学的知識を体系化する能力を養います。 例年、この科目による副専攻認定には原則として2年間の履修を求めています(独自基準)。1年目に基礎知識を養い、2年目には複数の原著論文を要約して、総説としてまとめる作業を行います。単年度の履修を認めることもあります。よほどの場合を除き副専攻認定は難しいと考えてください(難しい主たる原因は学生の皆さんの習熟度未達のため)。 授業時間内はその週に行った学習・研究の成果を報告し、議論と質疑応答をおこなう時間となります。資料・文献を読み、情報をまとめる作業は自宅などで行っていただきますので、十分な時間がとれるようにしてください。 最近取り上げた内容(例)は次のようなものです。 1. がんの免疫治療 2. ゲノム編集の仕組みと展望 3. 筋肉増強の分子・細胞メカニズム
事前の準備： 日吉開講の生物学(実験を含む)で扱う内容または下記1と2の教科書程度はあらかじめ理解しているように準備してください(図書館にあります)。下記3と4で一年目に学習に使う資料のレベルを確認し、二年目には下記5の書籍で扱われているような論文を読むものと理解して参加してください。 - 和田勝『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第二版』羊土社(2011) - 東京大学生命科学教科書編集委員会(編)『文系のための生命科学 第二版』羊土社(2011) - 井出利憲『分子生物学講義中継』羊土社(2002～ シリーズ物) - Campbell, N.A.(他)『キャンベル生物学』丸善(2018) - 渡辺公綱(他)『英語論文セミナー 21世紀の分子生物学』講談社(2013) このクラスで学びたいピックスについてあらかじめ調査し、すぐに説明できる状態としておくこと。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 生物学(実験を含む)Ⅰ・Ⅱ および 自然科学研究会Ⅰ・Ⅱ、その他自然科学系の実験科目・特論・教養研究センター設置科目など。担当者は問いませんがなるべく遺伝子関連の内容が多いものを勧めます。
その他： 基本的に対面で授業を行います。状況によっては zoom を用いたリアルタイムオンラインとなる可能性があります。対面の場合は、資料や設備の関係から日吉の教室を使用する予定です。副専攻認定レベルの指導を行うため、希望者多数の場合は準備具合(生物学の基礎知識)や受講動機を聞いて選抜することがあります。また、事前相談無く履修登録した場合は単位を認めません。 個別説明会はあるべく Zoom で、希望者(個人またはグループ)とメールで日時を打ち合わせた後に行います。まずは ono@a7.keio.jp までメールで問い合わせてください(できるだけ義塾から配布されたアドレスを使用のこと。フリーメールからの問い合わせには返信しないことがあります)。

